

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3042071号

(45)発行日 平成9年(1997)10月7日

(24)登録日 平成9年(1997)7月23日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>  
A 4 4 C 25/00

識別記号

片内整理番号

F I  
A 4 4 C 25/00

### 技術表示箇所

**B  
Z**

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 FD (全 10 頁)

(21)出願番号 実願平9-1625

(22)出願日 平成9年(1997)2月25日

(73)實用新案權者 591027433

日本アクセサリー工業株式会社

神奈川県横浜市港北区太尾町794番1

(72) 考案者 三島 紳也

神奈川県横浜市港北区太尾町794番1 日

本アクセサリー工業株式会社内

(74)代理人 弁理士 福島 康文

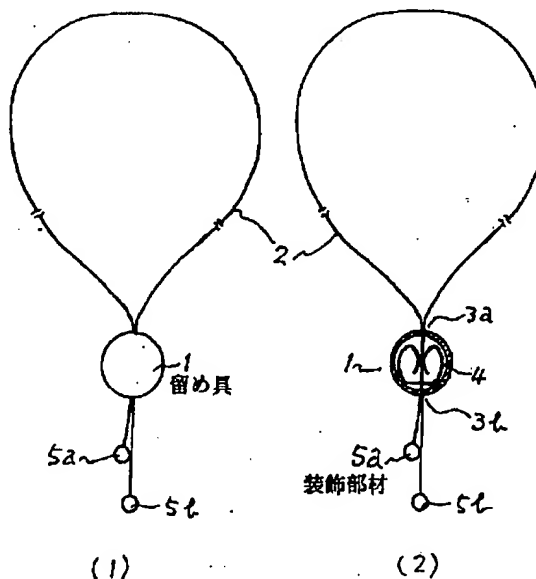
(54) 【考案の名称】 装身用鎖の留め具

(57) 【要約】

【課題】ネックレスやブレスレットなどのような装身用鎖の留め具に関し、これまでとは違った、斬新で変化に富んだ使い方を実現することを目的とする。

【解決手段】装身用鎖を挿通して留める留め具であって、球状その他の形状をしていて、装身用鎖を挿通する貫通孔を有しており、しかも内部には、装身用鎖が脱げるのを防止する弾性部材が入っている構造になっている。

本考案による装身用鎖の留め具の全容



1

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 装身用鎖を挿通して留める留め具であって、球状その他の形状をしていて、装身用鎖を挿通する貫通孔を有しており、しかも内部には、装身用鎖が脱けるのを防止する弾性部材が入っていることを特徴とする装身用鎖の留め具。

【請求項2】 前記の弾性部材が、金属製ないしは合成樹脂製のバネであることを特徴とする請求項1記載の装身用鎖の留め具。

【請求項3】 前記の弾性部材が、ゴム様体ないしは合成樹脂製のスポンジ様体であることを特徴とする請求項1記載の装身用鎖の留め具。

【請求項4】 前記の貫通孔に装身用鎖が挿通され、前記の弾性部材で保持されていることを特徴とする請求項1、請求項2または請求項3に記載の装身用鎖の留め具。

【請求項5】 留め具に挿通された状態の前記装身用鎖の一端または両端に、装飾部材を有していることを特徴とする請求項4に記載の装身用鎖の留め具。

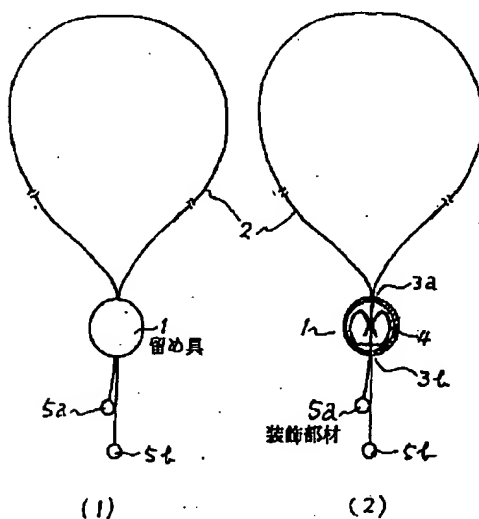
## 【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案による装身用鎖の留め具の全容を示す図で、(1)は平面図、(2)は留め具を断面で示した平面図である。

【図2】 図2の(1)は板バネの斜視図、(2)は留め具を構成する球体の断面図、(3)は前記の下側半球部の中に前記板バネを挿入した状態の平面図である。

【図1】

本考案による装身用鎖の留め具の全容



2

【図3】 図1、図2の留め具の製造方法を工程順に示した図である。

【図4】 弾性部材として、ゴム様体を用いた実施形態であり、(1)はゴム様体からなる弾性部材の斜視図、(2)はこのゴム様弾性部材を球状体中に内蔵した状態の断面図である。

【図5】 弾性部材として、合成樹脂製のスポンジ様体を用いた実施形態で、(1)はスポンジ様体の斜視図、(2)は前記スポンジ様体を球状体中に内蔵した状態の断面図である。

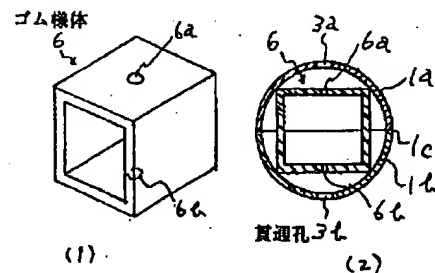
【図6】 留め具の他の使い方を示す側面図である。

## 【符号の説明】

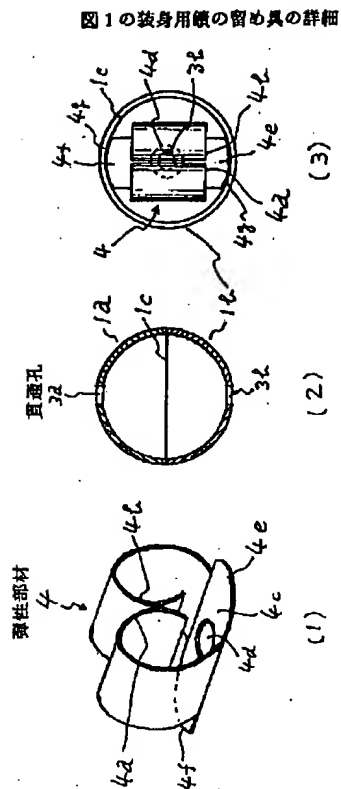
- 1 留め具
- 1 a、1 b 半球部
- 1 c 半球部同士の接合部
- 2 装身用鎖
- 3 a、3 b 貫通孔
- 4 弾性部材
- 4 a、4 b 円弧状板バネ部
- 4 c ベース部
- 4 d 孔
- 4 e、4 f フランジ部
- 5 a、5 b 装飾部材
- 6 ゴム様体からなる弾性部材
- 7 スポンジ様体からなる弾性部材

【図4】

ゴム様弾性部材を用いた実施形態

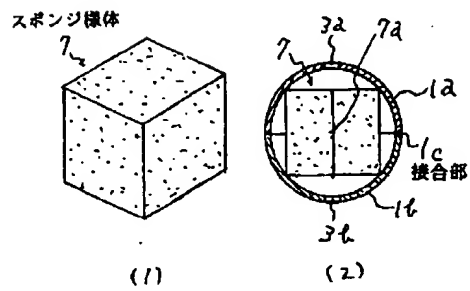


【図2】



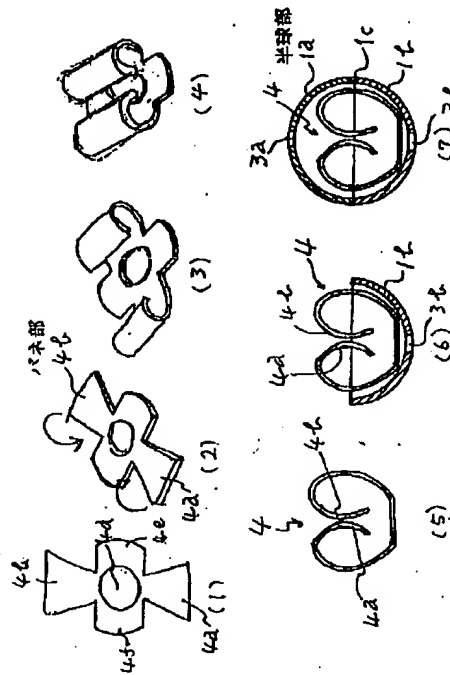
【図5】

合成樹脂製のスポンジ様  
弾性部材を用いた実施形態



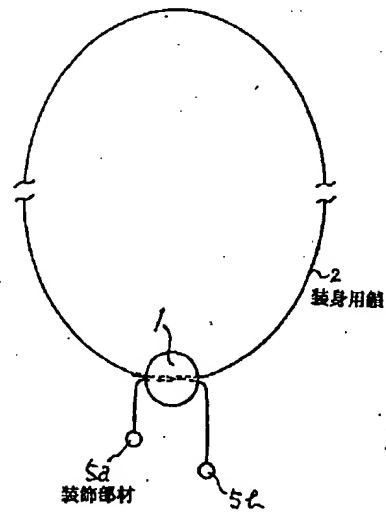
【図3】

装身用鎖の留め具の製造方法



【図6】

留め具の他の使い方



## 【考案の詳細な説明】

## 【0001】

## 【産業上の利用分野】

本考案は、ネックレスやブレスレットなどのような装身用鎖の留め具に関する

## 【0002】

## 【従来の技術と考案が解決しようとする課題】

従来のネックレスは、首に巻き、両端を連結して使用するのが通常である。また、ブレスレットも、手首に巻き、両端を連結して使用するのが通常である。

【0003】このように、これまでのネックレスやブレスレットの使い方は、単に首や手首に巻いて両端を連結するだけなため、使い方が単調で、変化に乏しい。ブレスレットやネックレスなどのような装身用鎖の需要を拡大し、販売量を増やすには、これらの装身用鎖の使い方を新たに開拓し、これまでとは違った、変化に富んだ使い方を開発することが肝要である。

【0004】本考案の技術的課題は、このような問題に着目し、ブレスレットやネックレスなどのような装身用鎖において、これまでとは違った、斬新で変化に富んだ使い方を実現することにある。

## 【0005】

## 【課題を解決するための手段】

本考案の技術的課題は次のような手段によって解決される。請求項1は、装身用鎖を挿通して留める留め具であって、球状その他の形状をしていて、装身用鎖を挿通する貫通孔を有しており、しかも内部には、装身用鎖が脱けるのを防止する弾性部材が入っている。

【0006】このように、装身用鎖を挿通する貫通孔が開いており、また挿通された装身用鎖を保持し、抜けるのを防止する弾性部材が内蔵されているので、装身用鎖を挿通すると、その位置に装身用鎖と留め具とが固定される。したがって、装身用鎖に対して留め具を任意の位置に固定して、留め具によって変化を持たせた使い方ができる。

【0007】また、前記の留め具と装身用鎖とを固定する手段として、弾性部材

の弾力を利用し、装身用鎖に対して留め具が自由にスライドして位置を変更できる構造になっているので、装身用鎖を身体に装着したり取り外したりする際に、留め具を容易に移動でき、また使い方を変えたい場合にも、容易に移動できる。

【0008】請求項2は、請求項1記載の弾性部材が、金属製ないしは合成樹脂製のバネである装身用鎖の留め具である。留め具に装身用鎖を保持する弾性部材としては、種々存在するが、金属製ないしは合成樹脂製のバネを留め具の中に設け、バネ体の弾力を利用することができる。なお、バネの形状は任意である。

【0009】請求項3は、請求項1記載の弾性部材が、ゴム様体ないしは合成樹脂製のスポンジ様体である装身用鎖の留め具である。このように、弾性部材として、ゴム様体ないしは合成樹脂製のスポンジ様体を用いることもできる。このようなゴム様体ないしはスポンジ様体は、装身用鎖に対し相対的に摺動しても、装身用鎖に傷が付いたりすることがないので、安心して使用できる。しかも、構造も簡単になる。

【0010】請求項4は、請求項1、請求項2または請求項3に記載の貫通孔に装身用鎖が挿通され、前記の弾性部材で保持されている装身用鎖の留め具である。請求項1から請求項3は、留め具のみに関する考案であるが、この請求項は、装身用鎖の貫通孔に装身用鎖を挿通した状態の考案である。このように、留め具に装身用鎖を挿通して弾性部材で保持した状態では、装身用鎖に対して留め具を自由にスライドさせ、任意の位置に固定して使用できるので、従来の装身用鎖とは違って、変化に富んだいろいろな使い方ができる。

【0011】請求項5は、留め具に挿通された状態の請求項4に記載の装身用鎖の一端または両端に、装飾部材を有している装身用鎖の留め具である。前記のように、留め具を装身用鎖の任意の位置に固定できるので、装身用鎖の両端の連結は、この留め具で行なうことができる。したがって、装身用鎖の両端には従来のような連結金具を設ける必要はないので、連結金具に代えて、任意の装飾部材を取り付けておけば、装身効果がより高まる。

【0012】

【考案の実施の形態】

次に本考案による装身用鎖の留め具が實際上どのように具体化されるか実施形

態を説明する。図1は、本考案による装身用鎖の留め具の全容を示す図で、(1)は平面図、(2)は留め具を断面で示した平面図である。

【0013】1は本考案による装身用鎖の留め具であり、図示例では球状をしているが、外面が多面体のものや、卵状やダルマ状など、任意の形状が可能であり、装身用鎖を挿通できる形態のものであればよい。

【0014】装身用鎖2は、ネックレスやブレスレットなどを構成する鎖であり、両端に装飾部材5a、5bが取り付けられている。この装身用鎖2を、留め具1に挿通するため、留め具1には、貫通孔が開いている。すなわち、装身用鎖2を挿入する側の孔3aと、装身用鎖2が貫通して出る側の孔3bを有している。

【0015】この図においては、留め具1の内部は空洞になっており、その中に、弾性部材として、板バネ4が内蔵されている。図2(1)は板バネ4の斜視図であり、1枚のバネ板の両端を、同じ側に半円筒状に折り曲げて、互いに背中合わせの円弧状板バネ部4a、4bを形成してある。そして、中央のベース部4cには、装身用鎖2が通過できるように孔4dを開けてあり、またベース部4cの両側には、留め具1中への固定用のフランジ部4d、4eを形成してある。

【0016】図2(2)は、留め具1を構成する球体の断面図であり、中央に挿入孔3aの空いた半球部1aと、中央に挿出孔3bの空いた半球部1bとからなり、両半球部1aと1bとを突き合わせて、接合部1cをロウ付けして一体に結合することで、球状に完成する。

【0017】図2(3)は、前記の下側の半球部1bの中に、前記の板バネ4を挿入した状態の平面図である。この状態では、ベース部4cの両側から突出したフランジ部4e、4fのみが、半球部1bの内面と接するので、この部分4gでロウ付けすることによって、板バネ4は半球部1bの内面に固定される。このとき、板バネ4のベース部4cの中央の前記孔4dは、半球部1bの中央の前記挿出孔3bの真上に位置する。

【0018】このように、下側の半球部1bの中に板バネ4を挿入して固定してから、前記の上側の半球部1aを被せて、合わせ目1cをロウ付けし、一体に結合すると、留め具1が完成する。

【0019】この留め具1に図1の装身用鎖2を挿通するが、可能ならば、装身

用鎖2を二つ折りにして、折り曲げ端を、まず貫通孔3aに挿入し、次いで円弧状板バネ部4a、4b間、ベース中央孔4d、貫通孔3bの順に挿通すると、図1の状態となる。なお、挿通した装身用鎖2を、どの位置で留めて固定するかは、使用者の自由である。

【0020】装身用鎖2を留め具1に挿通するには、ゴムヒモ通し具などのような器具に装身用鎖2を通して、該器具を挿通することで、装身用鎖2を引き込んで、貫通させることも可能である。

【0021】二つ折りにして、折り曲げ端から挿入するのが困難な場合は、装身用鎖2の端部から挿入するが、この場合、装身用鎖2の端部に連結金具や装飾部材5a、5bが付いていると、挿通が困難な場合は、連結金具や装飾部材5a、5bを外しておき、留め具1に挿通完了してから、再度取り付ける。

【0022】また、留め具1が完成してから装身用鎖2を挿通するのが困難な場合は、対の半球体1aと1bとを突き合わ接合する前に挿通する。すなわち、半球体1aと1bが分離している状態において、上側の半球体1aの中央の貫通孔3aに装身用鎖2を挿入し、次いで円弧状板バネ部4a、4b間、ベース中央孔4d、貫通孔3bの順に挿通してから、両半球体1aと1bとを突き合わせて、合わせ目1cをロウ付けし、一体に接合する。

【0023】図3は、図1、図2の留め具1の製造方法を工程順に示した図であり、まず(1)のように、バネ板材で対のバネ部4a、4b、フランジ部3e、4fおよび中央孔4dをプレス形成し、次いで(2)のように、バネ部4a、4bの両端を矢印で示すように同じ側に半円筒状に折り曲げ、さらに(3)(4)のように更に折り曲げることで、(5)のような眼鏡状に二つの半円筒状のバネ部4a、4bを有する板バネ4が完成する。

【0024】次に、(6)のように、下側の半球体1bの中に、前記板バネ4を挿入し、前記のフランジ部4d、4eをロウ付けして固定し、最後に(7)のように、上側の半球体1aを被せて、合わせ目1cをロウ付け接合する。なお、装身用鎖の挿通は、留め具1の合わせ目1cをロウ付け接合する前でも可能であり、完成後に挿通してもよい。

【0025】以上の板バネ4は、金属板で構成してあるが、合成樹脂製の板材な

どで形成し、接着材で下側半球体1bの内面に固定してもよい。なお、以上の板バネ4の形状は一例であって、バネ形状は自由に選択できる。

【0026】弾性部材は、バネ体に限られず、ゴム様体ないしは合成樹脂製のスポンジ様体なども可能である。図4はゴム様体を用いた実施形態であり、(1)はゴム様弾性部材6の斜視図、(2)はこのゴム様弾性部材6を半球体1aと1b中に内蔵した状態の断面図である。

【0027】6はゴム様体からなる弾性部材であり、図示例は立方体状をしており、しかも中空状にして、全体に四角筒状に形成されている。そして、互いに対向する壁部の中央に、装身用鎖2を挿通するための孔6a、6bが開けてある。この孔6a、6bは、装身用鎖2の太さより小さいことが必要であり、スリットや切り目などでもよい。これに対し、半球体1a、1bの貫通孔3a、3bは、装身用鎖2の太さより大きい。

【0028】このゴム様体の弾性部材6を半球部1b中に内蔵し、その中央孔3bとゴム様弾性部材6の下孔6bとが丁度重なる状態で、弾性部材6を半球部1b中に接着剤などで固定する。そして、上側の半球部1aを被せて、接合部1cをロウ付けなどで結合すると、弾性部材6の上側の孔6aが上側の半球部1aの中央孔3aと丁度一致する。

【0029】この留め具1の孔3a、6a、6b、3bに装身用鎖2を挿通すると、ゴム様弾性部材の孔6a、6bには、その弾力に抗して挿通されるため、弾力によって留め具1とゴム様弾性部材6とが固定される。

【0030】図5は、弾性部材として、合成樹脂製のスポンジ様体を用いた実施形態であり、(1)に示すようなサイコロ状のスポンジ様体7を、(2)図のように半球部1b中に内蔵して接着固定した後、上側の半球部1aを被せて一体に接合した構成になっている。

【0031】スポンジ様体7の場合は、装身用鎖2を挿通するための孔は容易に開けられるので、留め具が完成した後に、貫通孔3a、3bから千枚通しなどのような細長い器具を挿通すると、後からでも孔7を開けられる。そして、貫通孔3a、スポンジ様体7の貫通孔7a、貫通孔3bの順に、図1の装身用鎖2を挿通すると、スポンジ様体7の弾力によって、留め具1と装身用鎖2とが固定され



る。

【0032】スポンジ様体7やゴム様体6の場合は、材質が柔軟なため、装身用鎖2に対し留め具1がスライドして移動しても、装身用鎖2に傷ついたりすることもない。

【0033】図6は、留め具1の他の使い方を示す平面図である。図1は、装身用鎖2の両端を揃えて同じ向きにして、留め具1に挿通してあるが、図6では両端を逆方向に挿通してある。したがって、装身用鎖2の両端の装飾部材5aと5bとは、留め具1に対し反対側に位置することになる。

【0034】このように、本考案の留め具1は、いろいろな使い方が楽しめる。また、留め具1の位置は、胸側に持ってきたり、あるいは首の後ろ側に持つなど、自由自在である。以上の実施形態は、ネックレスに限らず、ブレスレットなどにも適用できる。また、ウェストにベルト状に巻いて用いる装身用鎖の場合にも、本考案を適用できる。

【0035】図示の留め具1は、球状の外観になっているが、外面が多面体の物やラグビーボール状、ナスビ状、その他の形状が適用できる。材質は、金属の表面にメッキしたものや真珠なども利用できる。また、装身用鎖2の両端には、従来の連結金具を用いる必要がなくなるので、連結金具に代えて装飾部材5a、5bを取り付け、お洒落を楽しむことができる。この装飾部材5a、5bの形状や材料、サイズなども任意である。

【0036】

【考案の効果】

請求項1によると、装身用鎖を挿通する貫通孔が開いており、また挿通された装身用鎖を保持し、抜けるのを防止する弾性部材が内蔵されているので、装身用鎖を挿通すると、その位置に装身用鎖と留め具とが固定される。したがって、装身用鎖に対して留め具を任意の位置に固定して、留め具によって変化を持たせた使い方ができる。

【0037】また、前記の留め具と装身用鎖とを固定する手段として、弾性部材の弾力を利用し、装身用鎖に対して留め具が自由にスライドして位置を変更できる構造になっているので、装身用鎖を身体に装着したり取り外したりする際に、

留め具を容易に移動でき、また使い方を変えたい場合にも、容易に移動できる。

【0038】請求項2のように、金属製ないしは合成樹脂製のバネを留め具の中に設けてあるので、バネ体の弾力を利用して、留め具と装身用鎖とを確実に固定でき、かつ留め具の移動も容易に行なえる。

【0039】請求項3のように、弾性部材として、ゴム様体ないしはスポンジ様体を用いることもできる。ゴム様体ないしはスポンジ様体は、装身用鎖に対し相対的に摺動しても、装身用鎖に傷が付いたりすることがないので、安心して使用でき、構造も簡単で安価に実現できる。

【0040】請求項4のように、留め具に装身用鎖を挿通して弾性部材で保持した状態では、装身用鎖に対して留め具を自由にスライドさせ、任意の位置に固定して使用できるので、従来の装身用鎖とは違って、変化に富んだいろいろな使い方ができる。

【0041】留め具は装身用鎖の任意の位置に固定できるので、装身用鎖の両端の連結は、この留め具で行なうことができる。したがって、装身用鎖の両端には従来の連結金具を設ける必要がないので、この連結金具に代えて、請求項5のように、任意の装飾部材を取り付けておけば、装身効果がより高まる。